

講義日時 2006年3月8日 14:00~15:45
場 所 慶應義塾大学三田メディアセンター5階研修室
講 師 加藤好郎氏(慶應義塾大学国際センター事務長)
講 義 ケースメソッドプログラム「図書館予算の削減とサービス向上」

ケース事例(一部抜粋)

このケースは、クラス討議のための資料として作成された架空事例であり、講師が2004年11月作成、2006年1月改定したものである。

薩摩大学では、大学経営の悪化が現実の問題となってきた。薩摩大学図書館では、年々減少している図書費の削減に対して、学内でのリソースシェアリング(図書館予算と研究室図書の重複を避ける:因みに重複率は2割強)を行いながら、資料費の有効活用をしてきた。そのことは十分に評価されているのだが、抜本的な解決にはならず年々図書の購入に陰りが見えはじめ、雑誌のタイトル数も少しずつ減少をしていることに頭を悩ませている。このことに、追い打ちをかけるように、来年度は図書予算の前年度比30%削減の内示を受けた。

2005年度 図書館予算全体 2億円(図書館図書予算 1億円、研究室図書予算 1億円)
2006年度 図書予算全体 1.4億円(図書館予算 7200万円、研究室図書 7200万円)

[問 い]

このような状況の中で、図書館のサービスの向上を前提に、事務長の立場にたって、図書館図書の予算案を作成してください。また、経理担当理事との折衝への取り組み方も検討してみてください。

提示された参考資料

薩摩大学の2005年度図書館図書予算、研究室図書予算の詳細な内訳

薩摩大学電子媒体購入実績および2006年度購入計画書

薩摩大学の概要(学生数、教員数)、図書館概要(蔵書数、スタッフ人数と構成、諸経費)

登場人物表(意見)(館長、事務長、選書課長、総務課長、閲覧課長、整理課長、貴重書歌課長、レファレンス課長)

電子ジャーナルに関するアンケート調査(教員)

方法 1 ケース説明 10分 2 個人研究 30分 3 グループ研究
4 グループ発表 5 クラス発表

まとめ

最終的にグループごとに、現状の図書館サービスの低下を招かない(向上させる)ことを念頭におきつつ、図書予算の30%削減の具体的な案について検討を行い、クラスで発表を行った。